

2004年12月14日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2004年11月度 高島屋営業報告

* 本年6月1日をもって、立川店レストン街の運営を東神開発㈱に移管しました。

* 立川店の前年数値を調整し、分社化した4店の売上を含めた全18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

百貨店事業概況 本年 -13.0 **実質** -6.2 (前年比%)

11月度は、記録的な暖冬の影響で、この時期主力のコートやブーツなど防寒商品の動きが低迷、前年より土日が各1日減なこともあり、18店計**実質**前年比は-6.2%と低調な結果に終わった。

店舗別概況							関西計		
	関西	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋	本年	実質
売上		-7.6	-4.4	-3.0	-11.1	-5.7	-8.9	-18.7	-6.5
入店客数		-18.9	-6.6	-6.1	-2.5	-4.8	-7.9		

* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

店舗別概況									関東計		
	関東	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋	本年	実質
売上		-3.1	-5.3	-9.3	-4.6	-8.9	-12.9	-9.0	-2.8	-9.2	-6.0
入店客数		15.2	-4.1	-6.3	-9.5	-0.9	-9.7	-6.3	-5.7		

* 横浜店には港南台店の売上を含む

* 立川店:実質-6.1%

<店舗別> 関西では、梅田地区の「ル・ヴィエント」や、阪急百貨店出店の北花田地区など新規商業施設がオープン、大阪店など入店客数に影響が見られた。この新施設オープンに対し、大阪店ではエルメスのリニューアルオープン、堺店・泉北店では開店記念祭を開催し対応策に取組んだが、暖冬による衣料品不振の影響が大きく、前年を下回った。また、関東では、催「韓流特別展 In Tokyo」開催により東京店は入店客数を伸ばしたが前年には及ばず、玉川店は前年リニューアルの反動がみられた。

広域事業概況	法人	通販	広域計
	-6.6	-18.1	-11.8

<広域事業> 法人事業は、大型物件の受注減により前年を下回り、通信販売事業は、「おせち」の受注好調(前年比+13%)により食料品(同+1.9%)は前年を上回ったが、衣料品の低迷により全体は低調な結果となった。

総計	本年	実質
	-12.9	-6.6

商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質	本年	実質		本年	実質	
紳士服・用品	-20.5	-14.8	身のまわり品	-8.2	-2.3	食料品	-6.8	-0.5
婦人服・用品	-19.0	-12.2				食堂・喫茶	-11.6	-2.0
子供服・用品	-21.4	-14.8	家具	-23.0	-18.1	雑貨	-9.0	-2.4
その他衣料品	-22.2	-13.8	家電	4.3	8.1	サービス	4.0	6.6
衣料品計	-19.8	-13.1	その他	-12.0	-7.4	その他	-10.8	-7.6
			家庭用品計	-14.3	-9.6	合計	-12.9	-6.6

<店頭商品別> お歳暮が好調に推移した食料品(前年比+1.7%)、絵画に動きがみれた美術(同+20.9%)、特選衣料雑貨(同+1.7%)が前年を上回ったが、紳士服(同-14.3%)、婦人服(同-11.3%)、ハビリー・子供(同-15.0%)など衣料品や、紳士雑貨(同-9.8%)、婦人雑貨(同-5.6%)などファッション雑貨が低迷、リビング(同-9.4%)、宝飾品(同-10.3%)も前年を下回った。